

主な質疑応答

Q1：2022年3月期業績予想（P14）で、「収益認識に関する会計基準」を使用すると記載されていますが、この会計基準による業績の例年との差はどの程度見込まれるのでしょうか。

A1：当社グループ関係会社の取引のうち、当社グループ外への代理人取引に該当する部分が想定されます。これらの影響額は僅少と見込んでおります。

Q2：「中期経営計画2019の進捗」のなかで自動計測システムの採用拡大（P25）とありますが、どの程度の現場で採用されるのでしょうか。また想定通り採用された場合、どの程度の利益貢献が見込まれるのでしょうか。

A2：自動計測システムは土木や建築それぞれの個性に合わせた小規模かつ目的別（用途限定）のものが多く、工事現場の種類や数によって個々のシステムの稼働率（労働削減時間）が変化します。前期までに自動計測システムが活用された工事現場は2現場となります。今後は、これらの工事現場で得た実証データをブラッシュアップし、さらに多くの工事現場で活用し生産性向上を目指してまいります。

Q3：昨年の紹介されていた「プレキャストPC床版自動製図システム」の進捗は順調でしょうか。また、低減効果も以前の想定通り開発が進んでいますか。

A3：「プレキャストPC床版自動設計製図システム」は、2段階のステップを経て今年度に完成を目指しています。第1段階のPC床版の自動割付けシステムはすでに稼働しており、これまで受注した工事に対して試行しております。1工事あたりの設計時間は様々ではありますが、ある試行現場では業務時間を半減できたとの報告もありました。今後も当システムの全稼働時において、1現場あたりの全体設計時間の削減目標40%に向けて、利益を着実に積上げていけると考えております。

Q4：PSMAX推進委員会で開発している「自動計測システム」、「プレキャストPC床版自動製図システム」以外の開発案件と、その期待される効果についてもご紹介いただけますでしょうか。

A4：目下の当社の収益の柱は、土木事業の大規模更新事業であり、DX導入とその事業での生産性向上は急務として取り組んでいます。これらの大規模更新事業に係る様々なコンクリート構造物のプレキャスト化に向け、各工場内設備と工事現場に関する機械類のインテリジェンス化はPSMAXの大きな柱の一つとして取り組んでおります。建築事業は、様々な構造物へBIMを中心とした開発業務等の生産性向上を図っています。また安全や現場入場者の認知・理解向上においてはVR、ARを中心とした訓練系DXの導入も始めています。

Q5：投資（P29）について、投資成長分野及び生産性向上への研究開発投資20億円とありますが、その中でPSMAXにかかわる金額はどの程度を想定していますか。

A5：中期計画 2019 最終年度における今年度において約6億を計上し、さらなる上乗せを目指しております。

以上